

製品名: CD305 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08347**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	LAIR1
別名	LAIR1; CD305; Leukocyte-associated immunoglobulin-like receptor 1; LAIR-1; hLAIR1; CD305
遺伝子 ID	3903.0
SwissProt ID	Q6GTX8
免疫原	抗血清は、ヒト LAIR1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

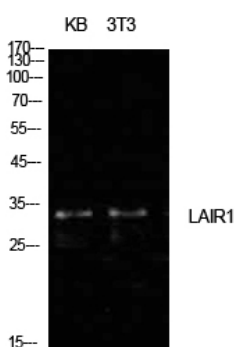
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ナチュラルキラー細胞、T細胞、B細胞などの末梢単核細胞に存在する抑制性受容体

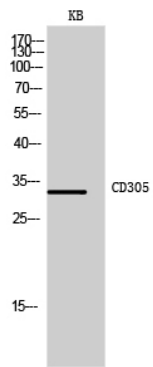
です。抑制性受容体は免疫応答を制御し、自己と認識された細胞の溶解を防ぎます。この遺伝子は、免疫グロブリンスーパーファミリーと白血球関連抑制性受容体ファミリーの両方に属します。この遺伝子は、白血球受容体クラスターと呼ばれる 19q13.4 の領域にマッピングされ、この領域には、白血球で発現する免疫グロブリンスーパーファミリーの受容体をコードする遺伝子を少なくとも 29 個含んでいます。コードされているタンパク質は、チロシンホスファターゼ SHP-1 のアンカーとして同定されており、骨髄性白血病において細胞死を誘導する可能性があります。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2014 年 1 月]、発生段階: ナイーブ B 細胞が *in vitro* 刺激下で増殖し、Ig 産生形質細胞に分化すると、発現が完全に失われます。、ドメイン: ITIM (免疫受容体チロシン阻害因子モチーフ) モチーフは、LAIR1 の細胞内部分に 2 つのコピーが存在する細胞質モチーフです。リン酸化されると、ITIM モチーフはいくつかの SH2 含有ホスファターゼの SH2 ドメインに結合し、細胞活性化のダウンレギュレーションを引き起こします。機能: ナチュラルキラー (NK) 細胞、B 細胞、および T 細胞の細胞溶解機能に対して構成的な負の調節役割を果たす阻害受容体として機能します。Tyr リン酸化による活性化は、ホスファターゼ PTPN6 および PTPN11 のリクルートメントと活性化をもたらします。また、B 細胞受容体ライゲーションによって引き起こされる細胞内カルシウムの増加を減少させます。SH2 含有ホスファターゼとは独立して阻害作用を発揮する可能性がある。CD4+ T 細胞におけるサイトカイン産生を調節し、IL2 および IFN 産生をダウンレギュレーションするとともに、形質転換成長因子 β の分泌を誘導する。B 細胞における IgG および IgE 産生、ならびに IL8、IL10、TNF の分泌もダウンレギュレーションする。骨髄性白血病細胞株において増殖を抑制し、アポトーシスを誘導するとともに、NF- κ B p65 サブユニット/RELA の核移行および I- κ B α /CHUK のリン酸化を阻害する。末梢血前駆細胞の樹状細胞への分化を阻害します。誘導: p38 MAP キナーゼおよび ERK シグナル伝達を必要とするプロセスにおける T 細胞受容体刺激によって。、PTM: N グリコシル化されています。、PTM: Tyr-251 および Tyr-281 のリン酸化によって活性化されます。LCK によってリン酸化される場合があります。類似性: 1 つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含みます。、サブユニット: チロシンタンパク質ホスファターゼ PTPN6 および PTPN11 の SH2 ドメインと相互作用します。PTPN6 との相互作用は構成的です。CSK の SH2 ドメインと相互作用します。、組織特異性: ナチュラルキラー (NK) 細胞、T 細胞、B 細胞、単球、樹状細胞など、ほとんどの末梢単核細胞で発現しています。ナイーブ T 細胞および B 細胞では高い発現を示すが、胚中心 B 細胞では発現が見られない。HIV-1 感染患者のナイーブ B 細胞では異常に低い発現を示す。慢性活動性エプスタイン・バーウイルス感染症患者の NK 細胞では極めて低い発現を示す。

研究分野

画像データ



CD305 ポリクローナル抗体を用いた KB、NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



CD305 ポリクローナル抗体を用いた KB 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。